

# 令和元年度 実績

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

兵庫県立こども発達支援センター

## 令和元年度 実績

### 1 診療実績

#### (1) 事前協議

受診希望者について市町窓口事前協議を実施し利用申込書を受け取る。(詳細は「利用の手引き」参照)

##### <月別事前協議件数>

	31年 4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	計
件数	13	19	28	42	27	26	26	26	31	28	14	25	305

※受診の有無に関わらず全件を掲載

##### <事前協議から初診までの日数>

日数	件数
～30日まで	113
31～60日	135
61～90日	17
91～150日	5
151～200日	25
200日以上	8
その他	5
計	308

#### (2) 利用患者数

	31年 4月	元年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年 1月	2月	3月	計
初診数	21	21	27	28	31	27	28	26	25	27	26	21	308
再診数	241	268	256	346	335	289	329	303	303	276	300	346	3,592
利用延数	262	289	283	374	366	316	357	329	328	303	326	367	3,900

### (3) 初診患者内訳

初診患者に関する属性は下記の通りである。

#### <初診時年齢>

年齢	患者数
0歳	3
1歳	2
2歳	24
3歳	38
4歳	30
5歳	50
6歳	44
7歳	26
8歳	20
9歳	28
10歳	16
11歳	11
12歳	6
13歳	6
14歳	4
15歳以上	0
計	308

※0歳児3名、1歳児1名はダウン症児である

#### <性別>

性別	患者数
男性	230
女性	78
計	308

#### <受診の目的>

受診の目的	患者数
診断を受けたい	145
療育を受けたい	13
診断と療育を受けたい	121
気になる症状がある	13
セカンドオピニオン	7
その他	9
計	308

#### <紹介市町>

市町	患者数
神戸市	11
姫路市	1
明石市	150
西宮市	1
洲本市	3
相生市	1
加古川市	15
たつの市	1
赤穂市	4
西脇市	6
宝塚市	1
三木市	18
高砂市	7
川西市	1
小野市	14
加西市	1
朝来市	1
猪名川町	1
稲美町	21
播磨町	26
神河町	3
市川町	3
福崎町	18
計	308

<診断>

発達障害に関連する主たる診断名  
(ICD-10による分類)

疾患名	患者数	
PDD	49	15.9%
PDD+ADHD	5	1.6%
PDD+ADHD+LD	3	1.0%
PDD+ADHD+その他	1	0.3%
PDD+LD	5	1.6%
PDD+MR	33	10.7%
PDD+その他	29	9.4%
ADHD	11	3.6%
ADHD+LD	3	1.0%
ADHD+その他	9	2.9%
LD	18	5.8%
LD+その他	5	1.6%
MR	48	15.6%
MR+その他	10	3.2%
その他	65	21.1%
評価中・未診断	14	4.5%
計	308	100.0%

「その他」の内訳 (重複あり)

	患者数
小児肥満	1
不安障害	3
適応障害	1
盗癖	1
境界知能	48
表出性言語障害	1
言語発達遅滞	16
運動発達遅滞	1
非行	1
分離不安	1
緘黙	1
愛着障害	2
チック	2
てんかん	1
超低出生体重児	2
低出生体重児	5
結節性硬化症	1
メビウス症候群	1
ソトス症候群	1
ダウン症候群	4
協調運動障害	6
情緒障害	1
不登校	4
被虐待	4
コミュニケーション症	4
不注意	2
ゲーム障害	1
発達凸凹	19
診断保留	13
定型発達	2

※PDD：広汎性発達障害 (F84)

ADHD：注意欠陥多動性障害 (F90)

LD：学習能力の特異的発達障害 (F81)

MR：知的障害 (F70-74)

診断名が複数ある患者 116名 37.7%

知的障害の有無 (境界知能含む)

	患者数	
あり	139	45.1%
なし	169	54.9%
計	308	100.0%

#### (4) 保育実績

初めてセンターを訪れたこどもにまず保育士・支援員が出迎え、診察に同席し、こどもと個別で遊びながらこどもの特性を確認するために行動観察を行う。また、個別療育や集団コミュニケーション療法（別掲）では、各療法士と協働または保育単独で、こどもに合わせた遊びを工夫し発達を促す。

##### <診療>

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診陪席	18	19	24	21	26	26	29	24	21	17	24	18	267
再診陪席	14	27	54	52	58	57	40	39	47	46	49	72	555
計	32	46	78	73	84	83	69	63	68	63	73	90	822

##### <療育>

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業+保育	1	3	2	2	1	3	3	2	1	0	0	1	19
言語+保育	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	8
保育のみ	1	1	1	2	5	4	4	6	4	3	4	5	40
計	3	5	4	5	7	8	8	8	5	3	4	7	67

##### <ダウン症児の赤ちゃん体操教室>

ダウン症児への早期介入を目的に日本ダウン症療育研究会認定赤ちゃん体操指導員による親子体操を実施した。低緊張のダウン症児の運動発達を促すとともに発達の特徴を理解することでこどもへの理解や愛着を深めることが目的である。

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4
参加者	4	5	5	5	4	3	3	6	4	4	5	5	53

## (5) 心理実績

臨床心理士が心理検査を行い、こどもの発達の段階を客観的に確認し、支援の参考にする。面談では、具体的な対処法についてや、こどもの特性に対する理解を深めるために、本人や保護者と話し合う。また、必要に応じて、地域の園や学校と連携し、情報を共有してこどもへのバックアップを行う。

### <心理検査数>

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
心理検査数	22	30	29	43	38	32	37	28	20	22	35	26	362

初診患者が発達検査を他機関で過去1年以内に実施済みである場合は、他機関で実施した検査を参考に当センター初診・再診時に陪席して行動観察を行い、評価を実施する。

### <心理検査内訳>

		31年	元年							2年			計		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月	
発達	対面式	K式	7	18	22	18	12	16	17	11	8	8	18	6	161
		WISC	15	11	6	23	24	14	15	13	10	14	13	18	176
		その他	0	0	0	0	0	2	3	4	0	0	2	1	12
	質問紙	津守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	1	2	0	0	2	0	1	0	2	1	9
人格		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
その他		0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	
計		22	30	29	43	38	32	37	28	20	22	35	26	362	

### <うち再検査(再掲)>

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
K式	1	10	9	13	5	3	2	2	2	1	5	3	56
WISC	5	4	2	16	14	5	3	5	3	6	8	7	78
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
再検査計	6	14	12	29	19	8	5	7	5	7	14	10	136
心理検査計	22	30	29	43	38	32	37	28	20	22	35	26	362

診療開始から1年が経過した平成25年度から、再検査を必要とする患者には半年～1年程度の期間を開けて再度、心理検査を実施した。

<心理検査以外>

		31年	元年											延人数	実人数
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年				
診察陪席		10	17	19	13	3	4	1	2	6	4	6	17	102	88
こども 支援	ゆせりか	1	3	2	4	1	2	2	2	3	2	2	0	24	4
	他	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	0	2	9	9
保護者 支援	面接	0	1	2	4	5	2	3	2	4	1	1	2	27	8
	電話	23	23	24	27	11	16	34	23	20	18	26	19	264	184
地域 連携	電話	14	5	11	6	8	5	6	3	9	7	11	5	90	50
	会議	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2

(6) 療育実績 (言語聴覚療法・作業療法)

言語聴覚士 (以下 ST)、作業療法士 (以下 OT) は、年齢や障害の程度、ニーズなどに対応した個別のリハビリテーションプログラムに基づいて、療育を提供している。治療時間と頻度は、対象者の障害状況や年齢、家庭の状況などを配慮して設定される。こどもの持つ機能や能力を伸ばすための直接的な関わりに加え、保護者に対しては、こどもの特性の理解を深めたり日常生活での具体的な対応を助言している。

① 言語聴覚療法

療育評価では、国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、学齢版言語・コミュニケーション発達スケール (LCSA) などの言語検査を実施し、こどもの言語能力とコミュニケーション力の評価を行っている。読み書きの苦手な児童には、小学生の読み書きスクリーニング検査を実施することもある。検査に乗りにくい乳幼児や検査の対象年齢を超えている児童には、あそびや会話を通して行動観察を行い、コミュニケーションスキルを評価している。

個別療育では、個々の課題に合わせたプログラムにより療育を実施している。主に、絵カードを用いた言語理解と表出を促す課題や、他者との関係を保ちながらコミュニケーション力を育むプレイセラピーを行っている。センターでの療育場面だけでなく、家庭や園でも取り組める課題や関わりの助言を積極的に行っている。

	31年	元年											計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年				
療育評価件数	22	16	15	16	31	14	25	23	16	10	14	16	216	
療育件数	50	55	54	61	63	62	61	60	64	54	61	68	713	
合計	72	71	69	77	94	76	86	83	80	64	75	84	929	

## ② 集団コミュニケーション療法

就学を控えた5歳児を対象に、こどもの困りごとによりクラスを編成し、STと保育士と支援員が担当して活動を行っている。集団コミュニケーション療法はそれぞれ1単位20分、1回の活動につき3単位で実施している。

目 的：小集団の中で同年代のこどもと一緒に活動することで、園や学校など集団場面で抱える問題点について評価する。また、活動を通して、他者に伝えることや尋ねること、他者と協力することなどを経験し、社会性の向上を図る。

期 間 ・ 回 数：こども1人ひとり個別に設定 概ね6回程度

頻 度 ・ 実 施 時 間：月1回、木曜日 9:30～10:30

構 成 人 数：3～5名

内 容：自己紹介、自由会話、着席活動、ルールのあるゲーム、共同制作

担 当 職 種：言語聴覚士、支援員

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
集団療育件数	0	0	3	3	5	4	9	10	7	7	0	0	48

## ③ 作業療法

療育評価では、日本感覚インベントリー（JSI-R）、日本版感覚プロファイル（SP）、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、フロスティック視知覚発達検査、感覚処理・行為機能検査（JPAN）、機能的自立度評価表（WeeFIM）などを用いて、こどもの運動、感覚、生活動作を評価する。

運動は、歩く・座るなどの姿勢と運動、手の使い方、スキップや縄跳びなどの協調運動、運動企画、ボディーイメージについて、感覚は、感覚の処理能力と知覚・認知能力について、生活スキルは、食事・着替えや排せつなどの生活動作を確認しながら、問題がある場合はその原因を明確にし、対応を検討する。

療育では、評価をもとに目標とプログラムを立案し、こどもへのセラピーだけでなく、生活環境や活動への介入を行う。

	31年	元年								2年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
療育評価件数	14	18	13	15	19	19	18	17	10	13	11	13	180
療育件数	51	59	53	77	74	64	77	74	77	51	73	75	805
合計	65	77	66	92	93	83	95	91	87	64	84	88	985

## 2 事業実績

### (1) 出張発達健康相談

センターへの来所が困難で、医師による発達障害の診断・療育をうける機会が少ない地域に、センターの職員が出向き、児童の発達にかかる健康相談を実施する。

①対象者：乳幼児から概ね 15 歳までの児童で、発達障害の疑いがある者、又は発達障害と診断された者で、発達、情緒・行動面等の問題において課題を抱えている者

②対象地域：県内全域

③事業内容：相談及びカウンセリングの実施

④派遣職種：医師、臨床心理士（以下 心理士）、保健師、支援員等

⑤実施方法：市町からの要望を集約し、市町と協議のうえ年間出張計画を策定し、実施

（費用は無料）

実施日	市町名	相談者数	派遣職種
元年 5月20日	たつの市	2名	医師、心理士、保健師、支援員
7月22日	西脇市	2名	医師、心理士、支援員
8月19日	相生市	4名	医師、心理士、保健師、支援員
8月26日	三木市	3名	医師、心理士、保健師、支援員
9月27日	豊岡市	1名	医師、心理士、保健師、支援員
12月17日	南あわじ市	2名	医師、心理士、保健師、支援員
2年 2月10日	たつの市	4名	医師、心理士、保健師、支援員
2月14日	加西市	1名	医師、心理士、保健師
2月25日	相生市	4名	医師、心理士、保健師、支援員
7市町 (9回)		23名	

### (2) 派遣発達支援（療育体制づくりの支援）

市町の要請に基づき、市町の療育体制を新しく整備する場合や現在の体制をより充実させる場合に、その計画や内容に対する助言等を行うため、センター職員を各市町に派遣し、療育体制づくりを支援する。

①対象地域：県内全域

②事業内容：市町の療育体制づくりへの支援、核となる支援機関への支援、派遣支援後の定期的なフォローアップ

③派遣職種：臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等

④実施方法：派遣を希望する市町から協議を受け、契約を締結のうえ派遣

実施日	市町名	派遣職種
元年		
5月13日	小野市	作業療法士
6月10日	小野市	作業療法士
7月30日	川西市	作業療法士
7月12日	養父市	言語聴覚士
8月2日	宍粟市	臨床心理士
10月7日	三木市	臨床心理士
12月19日	小野市	作業療法士

### (3) 研修・情報提供等

こどもが成長発達する過程に携わる保健師や保育士、支援過程で関わる専門職の心理士、言語聴覚士等、支援者のスキルアップのため、センターの職員や外部専門家の特色を活かした研修を企画実施した。

- ①内 容：講義、実地研修
- ②対象者：保健師、保育士、支援員、心理士、言語聴覚士、作業療法士等
- ③講 師：こども発達支援センター職員、その他必要に応じ外部講師
- ④経 費：受講者負担（こども発達支援センターの研修受講料等徴収要領による）

#### <基礎研修>

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
元年				
5月30日	[講義] 発達障害の基礎知識	心理士、支援員	39名	センター
6月13日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	支援員、作業療法士	4名	
6月17日		心理士、言語聴覚士	4名	
7月25日		心理士、作業療法士	3名	
8月8日		支援員、言語聴覚士	3名	
8月22日		心理士、作業療法士	3名	
9月2日		心理士、言語聴覚士	4名	
9月5日		支援員、作業療法士	5名	
10月17日		[講義] 発達障害の基礎知識	心理士、支援員	
10月28日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	心理士、作業療法士	4名	
11月18日		心理士、言語聴覚士	4名	
12月23日		支援員、言語聴覚士	3名	
2年		支援員、言語聴覚士	4名	
1月16日				

<スキルアップ研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
元年 7月 5日	連続講座 「幼児期のこどもの発達と療育的な関わり」	20名	センター
9月 18日	講師：センター支援員、作業療法士、言語聴覚士	19名	
12月 9日	「長期的な療育経過と保護者支援・地域連携」 講師：神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科 西田 和子氏	22名	センター
2年 1月 9日	「発達障害にみられる学習の苦手さ」 講師：藍野大学 教授 医学博士 若宮 英司氏	143名	複合型交流拠点 ウィズあかし
2月 21日	「関係機関と学校との連携を目指して」 講師：兵庫県東はりま特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 早瀬 確氏	33名	センター

<広報活動等>

情報提供としてインターネットホームページ (<http://hwc.or.jp/kodomohattatsu/>) の更新等により、発達障害について情報を発信するとともに、相談窓口の紹介を行う。

(4) 市町連携強化事業

兵庫県の委託により、センターと市町担当部署との連携を強化するため、地域別に市町及び関係機関との連絡会を開催した。

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
2年 2月 17日	・センター事業紹介 ・センター実績報告	市町（西播磨） 児童発達支援センター たんぽぽ 龍野健康福祉事務所 クローバー 上郡ランチ	たつの福祉 会館
3月 3日	・センター事例紹介 ・発達支援に関する情報 共有 ・意見交換	市町（中播磨） ケアステーションかんざき 兵庫県姫路こども家庭センター 中播磨健康福祉事務所 クローバー 上郡ランチ 兵庫県 障害福祉課	中播磨健康 福祉事務所

### (5) 家族交流支援事業

ひょうご発達障害者支援センタークローバーや兵庫県自閉症協会との共催のもと、ペアレントメンターによる講演会ならびに相談会を実施した。

ペアレントメンター：発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する講座を受けた保護者

実施日	テーマ・内容	参加者	主催・共催機関	場所
元年 10月8日	ペアレントメンター説明会	5名	主催：ひょうご発達障害者支援センター	センター
2年 1月28日	ペアレントメンター講演会 「就学に向けての準備」 講師：ペアレントメンター	42名	主催：兵庫県自閉症協会 共催：ひょうご発達障害者支援センター	
1月28日	ペアレントメンター相談会	3名	主催：兵庫県自閉症協会 共催：ひょうご発達障害者支援センター	
3月16日	ペアレントメンター相談会	1名	共催：ひょうご発達障害者支援センター	

### (6) 教育連携

高砂市特別支援教育専門家チーム委員会

### (7) 市町助言

市町	テーマ・内容
たつの市	5歳児発達相談事業事前検討会（1回） 5歳児発達相談の診察及び処遇検討の助言（4回）

### (8) その他

#### ①実習生の受入

学校名	実習内容	人数	時期	実習時間
兵庫医療大学	OT 基礎臨床実習	2名	令和元年2月	各2日間
神戸総合医療専門学校	ST 臨床実習 I (見学実習)	1名	令和元年2月	9日間

#### ②見学研修の受入

行政関係 2名  
医療関係 11名

計 13名

<参考資料>

開設以降の市町・圏域別センター利用状況

※出張発達、派遣発達の◎は複数回利用市町

圏域	市町	初診患者 ※ ( ) 内は R1 年度分	研修	出張発達	派遣発達
神戸	神戸市	111 (11)	○		
東播磨	明石市	1,028 (150)	○		
	加古川市	247 (15)	○		
	高砂市	135 (7)	○		
	稲美町	136 (21)	○		
	播磨町	161 (26)	○		
北播磨	西脇市	5 (6)	○	◎	
	三木市	157 (18)	○	◎	◎
	小野市	88 (14)	○	◎	◎
	加西市	3 (1)	○	◎	
	加東市	3 (0)	○	○	
	多可町	2 (0)	○		
中播磨	姫路市	7 (1)	○		
	神河町	4 (3)	○	◎	
	市川町	6 (3)	○		
	福崎町	34 (18)	○		○
西播磨	相生市	3 (1)	○	○	
	たつの市	14 (1)	○	◎	◎
	赤穂市	9 (4)	○		
	宍粟市	1 (0)	○		◎
	太子町	1 (0)	○		
	上郡町	1 (0)	○		
	佐用町	0 (0)	○	◎	
淡路	洲本市	15 (3)	○		
	南あわじ市	7 (0)	○	◎	
	淡路市	10 (0)	○	○	
阪神北	伊丹市	1 (0)	○		
	宝塚市	1 (1)	○		
	川西市	3 (1)	○		○
	三田市	0 (0)	○	◎	
	猪名川町	2 (1)			
阪神南	尼崎市	9 (0)	○		○
	西宮市	11 (1)	○		
	芦屋市	2 (0)	○		○
丹波	丹波篠山市	3 (0)	○	○	
	丹波市	8 (0)	○	○	
但馬	豊岡市	3 (0)	○	◎	
	養父市	1 (0)	○		◎
	朝来市	2 (1)	○	○	
	香美町	0 (0)	○		
	新温泉町	0 (0)			○
県外		1 (0)			
		2,235 (308)	39 市町	16 市町	10 市町

